

Japanese Literature — 16



現代日本の文学

川瑞成集

〈監修委員〉

伊藤 整

井上 靖

川端 康成

三島 由紀夫

〈編集委員〉

足立 卷一

奥野 健男

尾崎 秀樹

北 杜夫

(五十音順)

学習研究社

現代日本の文学

16

川 端 康 成 集

全50巻

分割払価格 39,000円

現金価格 35,500円

昭和44年11月1日 初版発行

昭和48年2月1日 六版発行

著 者 川 端 康 成

発行者 古 岡 秀

発行所 株式会社学習研究社

★ 東京都大田区上池台4-40

郵便番号 145 振替東京1296

電話 東京(720)1111 (大代)

印刷 大日本印刷株式会社

院印刷株式会社

製本 文勇堂製本工業株式会社

本文用紙 三菱製紙株式会社

表紙クロス 東洋クロス株式会社

製函 日本紙パルプ商事株式会社

*この本に関するお問合せやミスなどがありましたら、
文書は東京都大田区上池台4丁目40番5号(〒145)学習研究社
「ユーザー・サービス本部事務局」現代日本の文学係へ
電話は、東京(03) 720-1111 内線352, 353か、東京(03) 727-1600へお願いします。

© 1969 Printed in Japan

0393-164 616-1



「人がひとりもいませんわ。」とけい子は石段の上の門に立って言った。「名高い寺にしては、来る人の少いところなんですよが、これはふしぎですね。」と太一郎も立ちどまつた。

（「美しさと哀しみと」）

京都 嵯峨野
(「美しさ」と哀しみと)」



苔むして古びて、土に通い、
時にうずもれ、形があつてな
いような墓石であつた。それ
はなんにも言っていない。
(「美しさと哀しみと」)

京都 二尊院



無縁仏^{むえんぶつ}の墓じろしと言われる小さい古びた石塔が、数知れずならんでいて、無常感のただよう西院の河原、その墓石の前に供養の「千燈」がとるのを見て、音子の母は涙ぐんだ。

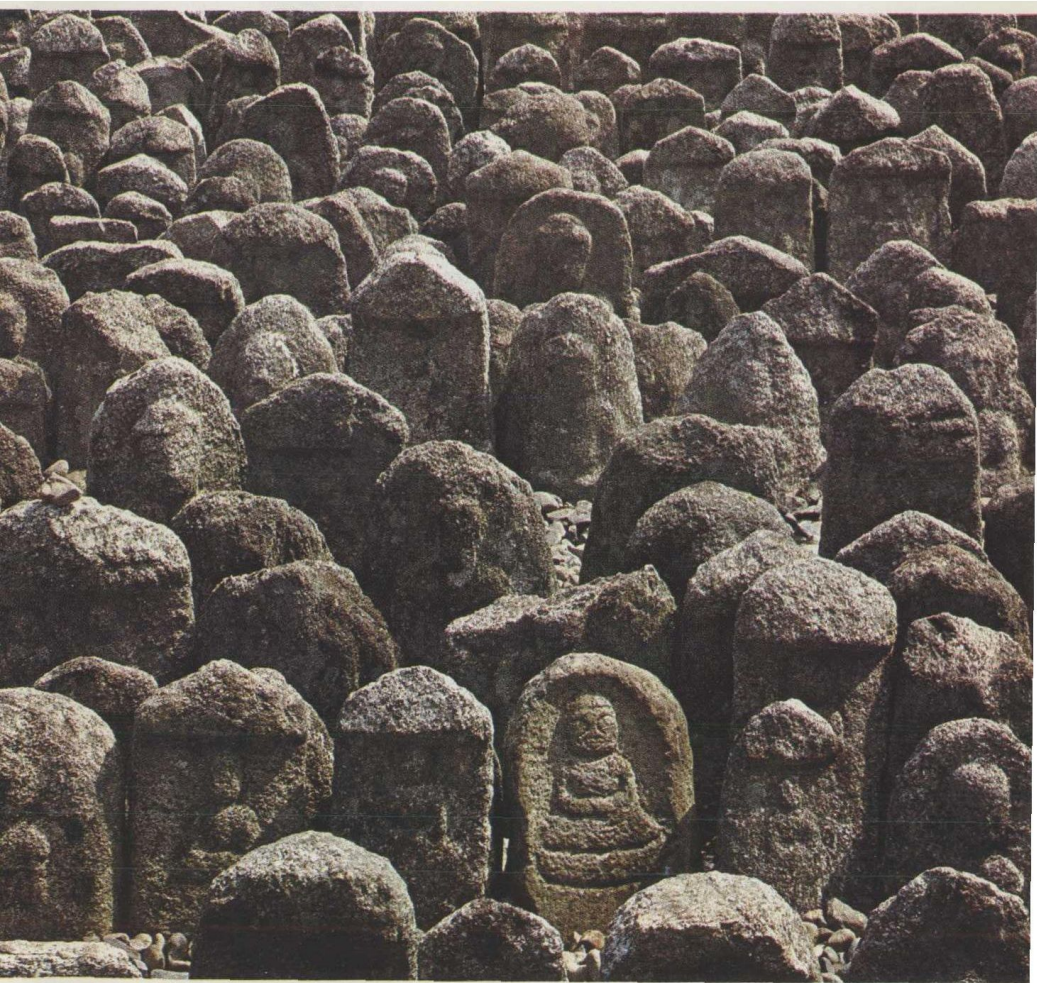
京都 仇し野念仏寺

(「美しさと哀しみと」)

「小倉山の裾に、定家がいたにはちがいないんですが、その時雨亭^{しあまてい}という山荘の跡は三ところあってどれがほんとうだか、よくわからないらしいですね。この二尊院の裏山と、隣りの常寂光寺と、それから厭離庵と……。」

京都 常寂光寺

(「美しさと哀しみと」)

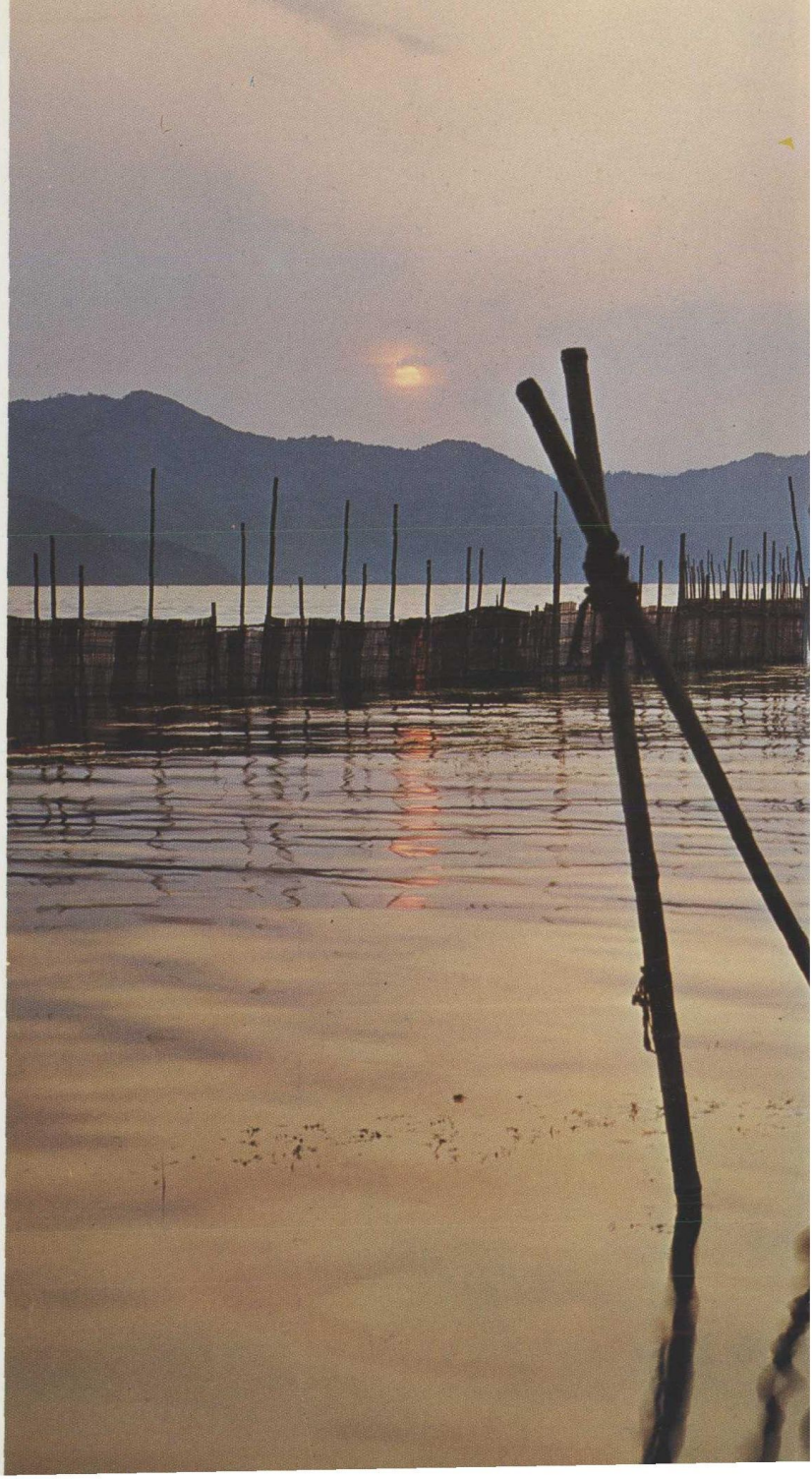




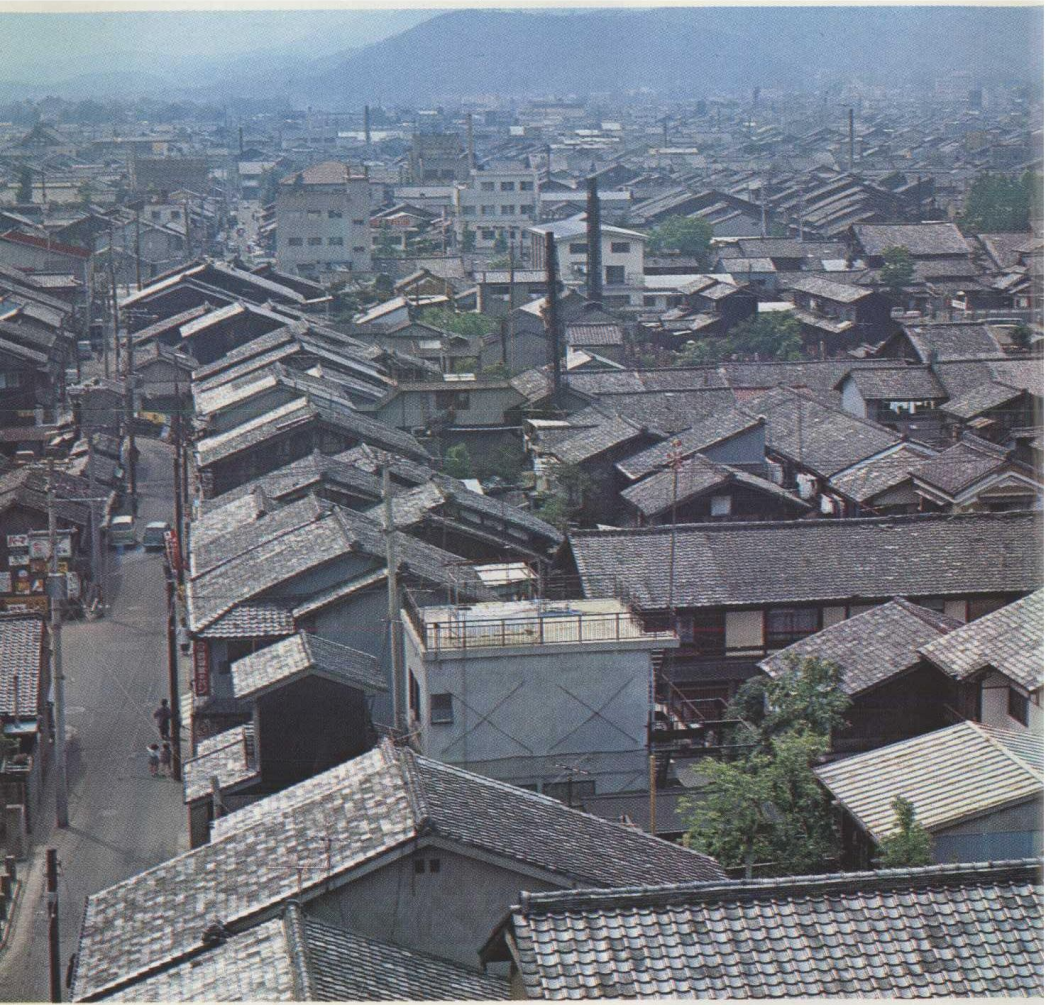


遠い山はもやにつつまれていた。水の色が濃くなつたみずうみには、あるかないかの淡い桃色がただよいはじめているようだった。

琵琶湖（「美しさと哀しみと」）



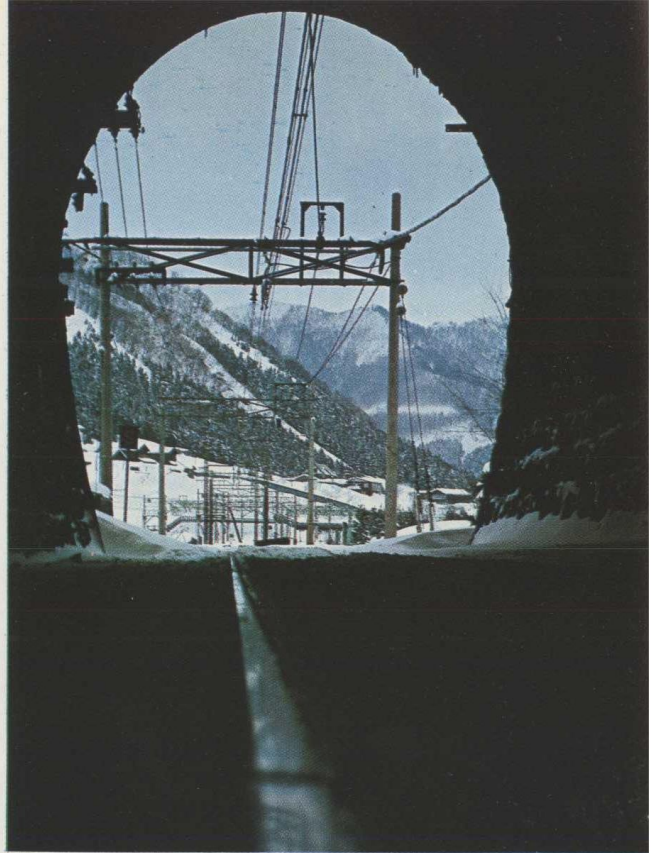




「千重子は、北山杉の村へいくのが好きやな」と、母は言った。「なんでとす」
「杉がみな、真直ぐに、きれいに立って、人間の心もあんな風やつたら、ええなと思うのどっしやろか」

京都 北山杉（「古都」）

古びた瓦屋根の、深いひさしの、小家が、伏しならんでいる。二階があっても、低い。露地のような横町は、さらにこたごたして、機音まで、薄くらがりから、聞えるようだ。京都 西陣（「古都」）

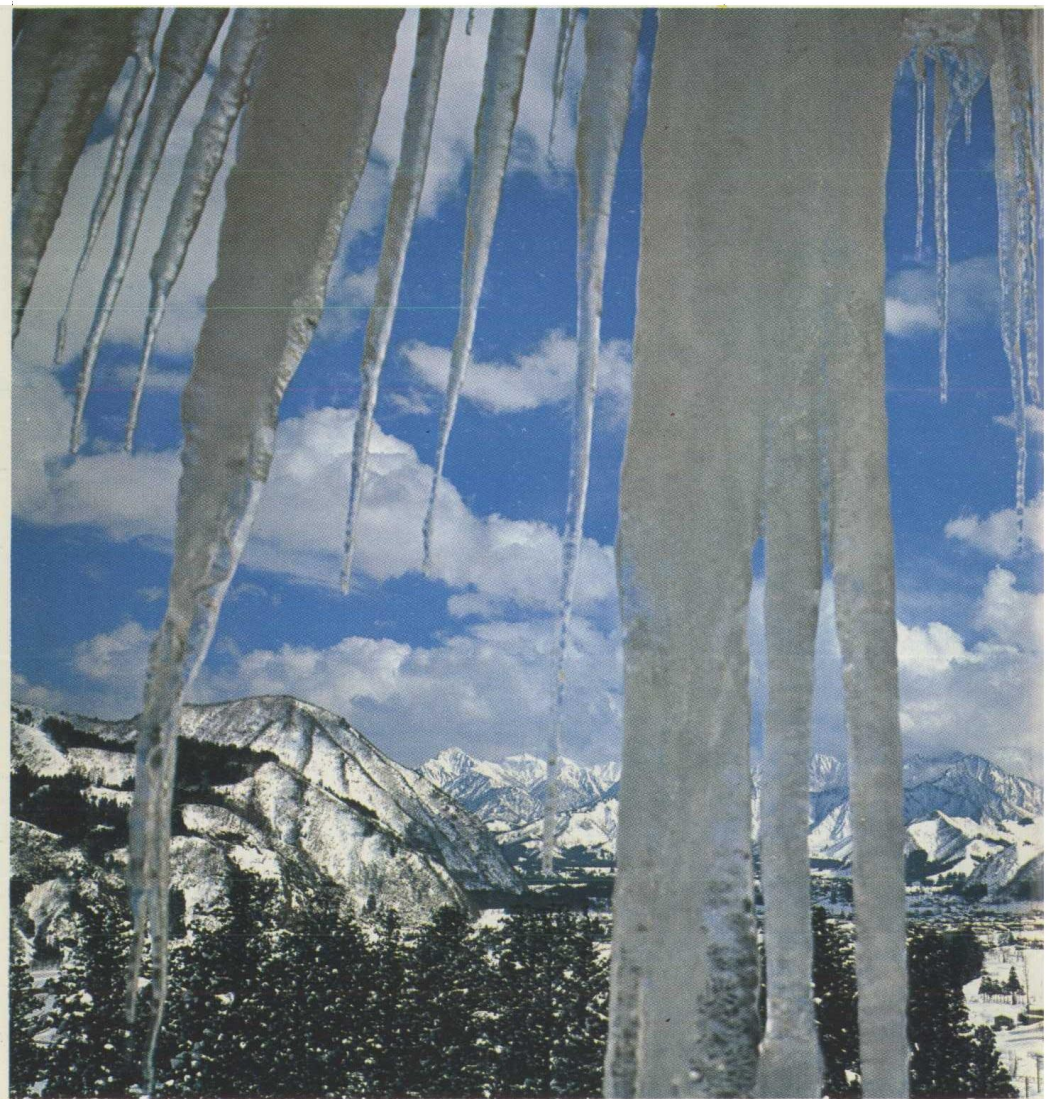


国境の長いトンネルを抜ける
と雪国であった。

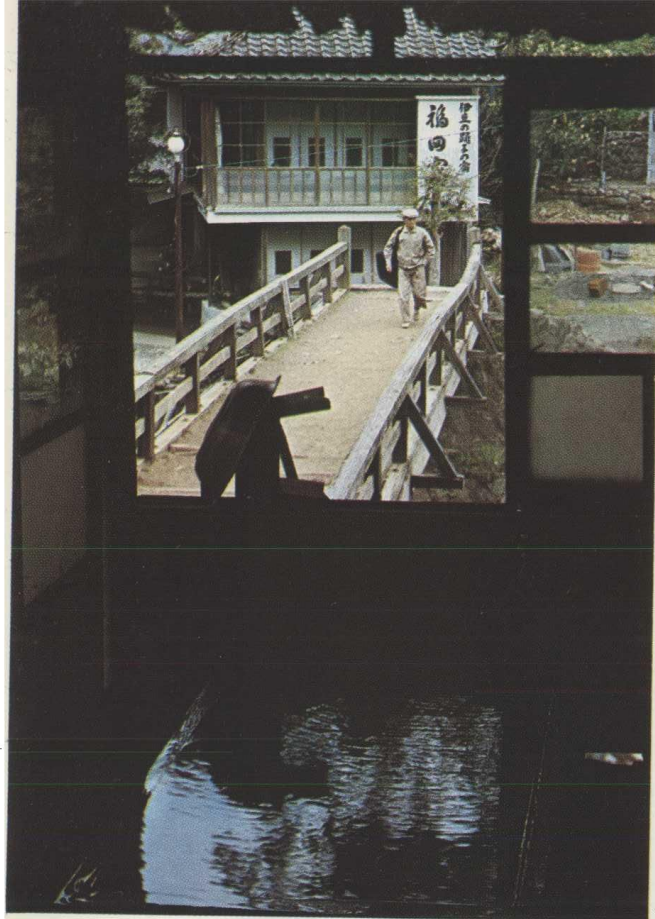
清水トンネル（「雪国」）

「いいお天気。早く帰って、
お稽古をすればよかったわ。
こんな日は音がちがう。」
駒子は澄み深まった空を見
上げた。
遠い山々は雪が煙ると見え
るような柔かい乳色につつま
れていた。

越後湯沢温泉（「雪国」）



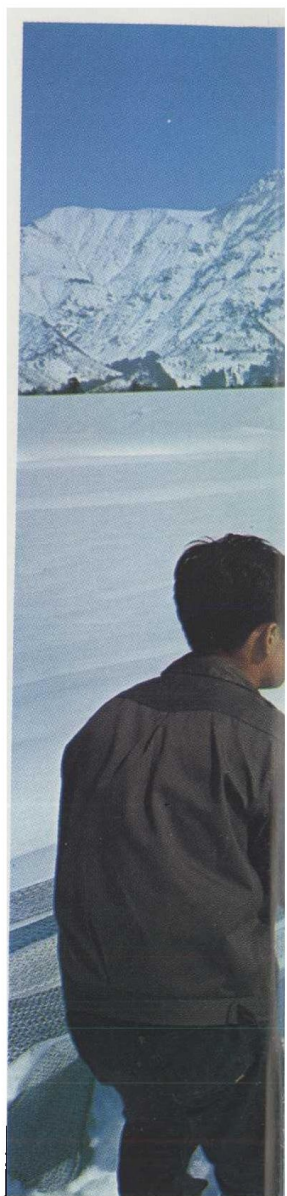




「伊豆の踊子」の宿として知られる、伊豆湯ヶ野温泉の福田家

雪のなかで糸をつくり、雪のなかで織り、雪の水に洗い、雪の上に晒す。積み始めてから織り終るまで、すべては雪のなかであった。雪ありて織あり、雪は縮の親というべしと、昔の人も本に書いている。

越後湯沢（雪国）





下田の港は、伊豆相模の温泉場などを流して歩く旅芸人が、旅の空での故郷として懐しがるような空気の漂った町なのである。 下田港（伊豆の踊子）